

群 教 セ	G15 - 01
	平 30.268 集
	小 - キャリア

平成30年度長期社会体験研修報告書

研修先：サンデンホールディングス株式会社

長期社会体験研修員 井上 詔司

I 研修内容

1 研修先の概要

サンデンホールディングス株式会社は、1943年に伊勢崎市に三共電器株式会社として設立され、現在は、世界23カ国54拠点で事業を展開するグローバルな企業である。主な事業は、自動車機器事業（カーエアコンシステム製品）、流通システム事業（店舗システム、ベンディングシステム）で、八斗島事業所、赤城事業所を中心に開発製造をし、世界各地で生産している。

2 研修先での主な研修内容

(1) 新入社員研修【4月2日～4月13日】（研修場所：サンデンコミュニケーションプラザ）

新入社員対象の研修に参加し、企業理念や経営方針の理解、社会人としてのマナー研修、品質や安全性を向上させるためのKYT（危険予知トレーニング）などを行った。

(2) 生産現場研修【4月16日～9月28日】（研修場所：サンデンフォレスト・赤城事業所）

サンデン・リテールシステム株式会社にて、生産本部、品質本部、開発本部の業務を経験することで、ものづくりの仕組みについて理解を深めた。生産本部では、冷凍ショーケースの組立作業、品質本部では製品評価試験や生産ラインにおける品質検査、開発本部では、市場に出る前の試作品試験などに携わった。また、安全巡視に参加し、各製造ラインの安全への取組や現場の状況について課題を出し合い、改善していく話し合いを体験した。

(3) 環境社会活動研修【10月1日～3月22日】（研修場所：サンデンフォレスト・第一宅番）

サンデンファシリティ株式会社 ECOS 事業部にて、小学生を中心とした施設訪問者の受入れ、環境学習、自然体験活動や安全巡回、自然保護活動など、森の活用と管理をする業務に携わった。また、一般公開に向け自然公園を活用するためのアスレチック設置や、受入れ拡大に向けた営業活動などの業務も行った。

3 キャリア教育実践

(1) キャリア教育資料について

企業研修で学んだことを基に、「みんなで改善をして、一人一人が安全に生活する力を身に付けること」をテーマに、小学校高学年向けのリーフレットを作成した。企業では、けがなく安全に働くための環境づくりや、一人一人が安全に対する意識を高める活動を行っている。学校においても、安全に生活するために、みんなで日々の生活を改善していくことの重要性を伝える内容とした。

(2) 実践の概要（前橋市立桂萱小学校）

授業実践

題材名 「安全な学校生活を送るためにはどうしたらよいか考えよう」（学級活動）

対象 5年2組 27名

学校生活におけるけがの大半は未然に防ぐことができる。そこで児童一人一人が、けがが起こりそうな状況を予測し、事前に安全な行動を判断する能力を身に付けさせることが必要だと考え、本授業を設定した。本時では、企業で取り組んでいる KYT（危険予知トレーニング）を取り入れ、校内の身近に潜む危険を見付け、自分たちが取るべき行動を考え、自らの今後の行動目標を決定した。そして、週に1回、朝や帰りの会で様々な場面について同様の活動を一ヶ月間行った。

校内研修

題材名 「組織的な業務カイゼン～明日からできることを考えよう～」

対象 所属校職員20名

製造業では、生産性を高めるために、限られた時間を有効に使えるように業務を見直し、繰り返し改善活動を行っている。学校現場においても、多くの業務を効率的に遂行することが必要である。そこで、限られた時間の中で最大限の教育効果を上げ、教育の質の向上を図ることを目的とし、校内研修を実施した。先生方から事前のアンケートで出された「生徒指導の充実、会議・朝会の工夫、教材・教具の活用の工夫」について、班ごとに改善点を考えた後、全職員で共有した。

II 研修成果

1 生産現場研修について

生産現場研修では、一つの製品が出来上がるまでには様々な部署が関わり合い、工夫改善しながら作業することの大切さを実感することができた。どの部署でも PDCA を実践し、常に無駄なく効率的に、けがなく安全に作業ができる環境づくりに取り組んでいる。また、一人一人の安全に対する意識を高めることにも重点を置いている。社員一人一人が気持ちよく仕事をするには、よい製品をつくることにつながり、さらにお客様の喜びへとつながることを学んだ。学校でも、児童一人一人の安全に対する意識を高め、生涯を通じて安全に生活する力を養っていきたい。

2 環境社会活動研修について

サンデンフォレストは「環境と産業の矛盾なき共存」をコンセプトとし、地域や利用者のことを考え、森を管理し、森を生かした自然体験プログラムを実践している。自然豊かな環境、誰もが安全に利用できる環境を維持するためには、外部との連携も必要不可欠で、地域の方々や様々な団体と情報交換しながら、地域社会が一体となって活動している。学校でも、児童が安心・安全に学ぶ環境を作るために、地域と連携していくことの大切さを再認識することができた。

3 キャリア教育実践について

授業実践では、生産現場で体験してきたことを学校生活に置き換え、身近なこととして具体的に考えることができた。学校生活の改善に向けて、意見を出し合い、自らの行動目標を全ての児童が決定することができた。安全についてみんなで話し合う活動を通じて、危険に気付くことができるようになるとともに、ルールを守るなど安全に対する意識の高まりも見られた。

校内研修では、日頃感じている業務上の課題について話し合う場を設けたことで、活発な意見交換が見られた。業務改善の具体的な課題が見え、今できることを整理することができ、改善に対する意識の高まりが見られた。

III まとめ

製造現場や環境社会活動の研修を受け、高品質の製品を生み出すための取組や社会貢献活動の重要性を知ることができた。よい製品を作るためには PDCA を実践して効率的に作業をするだけでなく、安全に対する意識を高めていくことの大切さを体感を通して学ぶことができた。学校でも日々の教育活動を見直し、児童が安心・安全に生活し、一人一人が満足できる教育活動を実践していきたい。

また、地域との関わりを大切にし、環境と工場の共存を実践していくことが、企業の社会における存在意義を高めていることも分かった。学校が地域や社会に対してどのように貢献できるのかを考えるとともに、地域との連携を図り、安心・安全な学校づくりに努めていきたい。

(担当指導主事 渡會 未央)